



峠に立つ子どもに

校長 作田潤一

今、3年生は卒業後の進路決定に向けて大きな峠を乗り越えようとしています。真剣に受験勉強に取り組む姿、既に進路が決定した生徒が受験を控えた友だちに温かく配慮する姿を見るにつけ、どうか希望が叶いますようにと思いを込めて願書や調査書に校長印を押すのです。

この時期になると、「峠は決定をしいるところだ」で始まる真壁仁さんの『峠』という詩を思い出します。

40年以上も前の話ですが、大学受験に失敗して、ふて寝をしている私の枕元に、父が近づき、お盆に載せた輪切りのちくわとビール瓶とコップ2つを置きました。そして、自分の若い日の苦労話を始めました。

私は目をつぶったまま話を聞きましたが、口下手な父が傷心の息子を思う気持ちや期待を布団の中でひしひしと感じていました。

話を終えた父は、一方のコップにビールを注いで静かに飲み干し、部屋を出ていきました。

この時に初めて聞いた父の経験や思いを還暦を迎えた今でも覚えています。

中学3年生の子どもたちは、人生初めての岐路に立ち、大きなストレスや不安を抱えていることでしょう。志望校合格の感動や不合格のショックは時間が経てば薄れていくかもしれませんが、この時にかけてもらった言葉は忘れずに、人生のバックボーンになるものと考えます。

学校でも、一人一人の進路を展望して励ましの言葉をかけるよう努めます。ご家庭でも、ご自身の経験や我が子への思い・願いを、この機会に伝えてみてはどうでしょうか。

修学旅行

2月5日～7日に、2年生は関西地方への修学旅行を実施しました。コロナ禍で計画が変更された先輩たちの思いを受け止め、最高の修学旅行にしようと「青春革命～3日間で最高の学びと思い出を～」をテーマに、実行委員が中心となり主体的に準備を進めてきました。1日目は奈良、2日目は京都の班別自主研修で伝統や文化に触れ、3日目はUSJを楽しみました。2日目の夜には、サプライズで校長先生の還暦祝いの儀式を行い、生徒からのメッセージが入ったちゃんちゃんこを贈りました。人生の節目をお祝いすることの大切さを知ることができました。実行委員長の栗崎さんは「3年ぶりに関西の修学旅行に行けることに感謝し、自分ができることを全力で行動することを心がけました。これからも周りの人に感謝し、支えあって行動したいです。」と感想と抱負を述べてくれました。



小さな親切

生徒会執行部発案による出身小学校での清掃活動『地域恩返しプロジェクト』、2年前から始めた JRC 委員会発案による月1回の学校周辺の清掃ボランティア活動『ちょボラ』の取り組みが、社会にわたる心豊かな輪をひろげた活動と評価され、公益社団法人より『小さな親切』実行章が授与されました。授与式では JRC 委員長の植田雅さんが、「大好きな御船町をきれいにしたいという思いで始めた清掃活動を、これから先も続けていきたいです。」と感想を發表しました。



恐竜博物館との交流学习

1月26日(木)に、モンタナ州立大学ロッキー博物館のリー・ホール氏とジョン・スカネラ氏をお招きして、御船恐竜博物館との連携講話が実施されました。講話ではモンタナで発掘された恐竜の化石や発掘調査の様子、わかった事実や研究結果について、たくさんの映像資料を用いながらすべて英語で説明されました。質問の時間では生徒も英語で質問し、「夢をかなえるために大切なことは何か？」との問いに「失敗から学ぶことがたくさんある。やり続けることが大切だ。」と答えられました。生徒からは「私は生物について興味があり、恐竜についてたくさんを知ることができました。易しい英語で話していただいたので内容は理解できました。普段の英語の学習がとても役に立ちました。」との感想が聞かれました。



広がる挨拶の輪

御船中学校では「20メートル先に届く挨拶」を行動指標としています。登校時には正門で立ち止まり一礼してから入校し、出迎える先生方に大きな挨拶をしています。生徒会も挨拶のさらなる向上を目指して、挨拶運動に取り組んでいます。また、挨拶運動に取り組む部活動もあり、元気でさわやかな挨拶の輪が広がっています。地域の方や来校された方から「御船中は挨拶がとてもよい。」とのお褒めの言葉も多くいただいています。今後も挨拶の輪を広げていきます。

